

牛伝染性リンパ腫とは

1. 原因(病原体)

本疾病は地方病型と散発型に分けられ、前者は牛伝染性リンパ腫ウイルスの感染が原因であるが、後者については原因不明である。



【リンパの腫大(しゅだい)(腫れて大きくなること)】

(出典: 動物衛生研究部門)

2. 感受性動物

牛, 水牛

3. 症状

- (1) 地方病型: 牛伝染性リンパ腫ウイルス感染牛の大部分は無症状であるが、一部が発症し体表リンパの腫脹、消瘦(さくそう)、元氣消失、食欲不振、眼球突出、乳量減少、下痢などを示し、死の転帰をたどる。
- (2) 散発型: 子牛型(6か月未満)、胸腺(きょうせん)型(6か月～2歳未満)および皮膚型(2～3歳)に細分され、子牛型では全身リンパ、胸腺型では胸腺が腫れ、皮膚型では全身にイボ状病変が形成される。

4. 発生状況

(1) 国内(牛)

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
戸数	1,683	2,015	1,998	2,227	2,324	1,944	2,075	2,179	2,182
頭数	2,415	2,869	3,125	3,453	3,859	4,113	4,197	4,375	4,334

	令和5年	令和6年
戸数	2,317	2,205
頭数	4,493	4,420

(2) 海外

世界各国で発生あり。

5. 診断法

疫学調査、臨床検査の結果を基に、抗体検査、病理組織検査の結果により総合的に判断する。

6. 予防法、治療法、対策

発症牛の治療法はなく、有効なワクチンもない。

「牛白血病に関する衛生対策ガイドライン」に基づいた衛生対策を徹底。